

『バジュランギおじさんと、小さな迷子』

2015年/インド/カビール・カーン監督作品

国境って何だろう

会員 土方 恭子 (61期)



『バジュランギおじさんと、小さな迷子』
Blu-ray & DVD 発売中
備 格: Blu-ray 5,280円(税込)
DVD 4,290円(税込)
発売元: 株式会社フルモテルモ
販売元: ハビネット・メディアマーケティング
©Eros international all rights reserved.
©SKF all rights reserved.

法曹の世界にはいった頃、インド映画『きっと、うまくいく』のポスターをみて、3人の青年が楽しそうにしている姿にこの映画を観たいと思った。数年前『きっと、うまくいく』に再会し、ようやく観る機会があった。大学を舞台とした青春ものの映画で、ホロリとさせる人生教訓の味わいもあり、かつ、歌あり踊りありでインド映画って面白いと思った。

インド映画を観続けるうちに『バジュランギおじさんと、小さな迷子』に出会った。パキスタン・カシミール地方に住む少女シャヒーダーとインドに住む男性パワンとの話だ。シャヒーダーは口がきけず、心配した親に連れられてインドにある廟への参拝に来た際に母親とはぐれてしまう。迷子になったシャヒーダーと出会ったパワンは、国境を越え、はるばるカシミールの親のもとにシャヒーダーを送り届けようとする。

映画のいたるところで、インドとパキスタンとは民族も違えば宗教も違い政治関係も悪く、隣国同士で憎しみあっているという背景が描かれている。国境警備の厳しさも一際だ。不法入国を一人たりとも許さないという雰囲気だ。海に囲まれている日本にいと陸続きの国境という感覚がない。以前、陸続きの国境の感覚を実感すべく中国とその周辺国の国境巡りをしたことがある。ラオスは徒歩で自由に行ける一方、ベトナムは鉄道の線路の幅自体が違っている。カザフスタンは両国から行けるショッピングセンターがあり、ロシアは国境を越えて中国まで日用品を買いに来ていた。国境では隣国同士の関係が垣間見られる。

インドとパキスタンとは宗教も違う。パワンは敬虔

なヒन्दゥー教徒で、シャヒーダーはイスラム教徒だ。シャヒーダーが鶏肉を食しモスクに入っていく姿に吃驚仰天するパワンの姿や、ヒन्दゥー教の神ハヌマーンに許しを乞いながらもシャヒーダーを救うために恐る恐る異教のモスクに入っていくパワンの姿を通して、互いの宗教を受け入れていく姿が描かれている。

人と人との触れ合いを阻んでしまっている宗教や国境って何だろうと考えさせられる。

パワンは、シャヒーダーを親のもとに送り届けたい一心で国境を越えて不法入国し、パキスタンでは警察からインドのスパイだと追われながらも、周りの人たちに助けられながらカシミールに向かっていく。カシミール地方はインド、パキスタン、中国が国境を接する山岳地帯で、たどり着くまでにも幾日もかかる秘境地帯だ。山好きの私にはたまらないほど魅力的な、天に突き刺さるような山々が連なる地域だ。そんな山々の素晴らしい風景も描かれながら、シャヒーダーは親のもとに送り届けられ、警察に捕らえられたパワンもパキスタンTVレポーター、ナワーズの機転で、国境を越えてインドに戻っていく。インターネット上でパワンとシャヒーダーの姿をインド・パキスタン全土に配信し、隣国に対する「憎しみに終止符を打ちましょう」と世論を動かしていく、ネット時代ならではの光景だ。

国境も宗教も民族も超えて、シャヒーダーを親のもとに送り届けたいというパワンの不器用ながらも優しい姿が心に残り、温かさを感じる映画だ。いうまでもなく、インド映画ならではの歌や踊りも満載な映画だった。